

## 第6回都市自治体におけるツーリズム行政に関する研究会

### 議事概要

日時：2020年12月1日（火）10:00～12:30（Web会議による開催）

出席者：川原晋 座長（東京都立大学）、阿部貴弘 委員（日本大学）、羽生冬佳 委員（立教大学）、

三浦正士 委員（長野県立大学）、米田誠司 委員（國學院大學）

（事務局）石川研究室長、高野研究員、黒石研究員、森研究員、安齋研究員（日本都市センター）

#### 議事要旨

- ・調査研究に関する議論（ヒアリング報告及びアンケートについて）
- ・報告書に関する議論（骨子案及びタイトルについて）

### 1. ヒアリング報告（岡山県倉敷市リモートヒアリング）

#### （倉敷市の課題）

- ・倉敷市は、短時間滞在の日帰り客が多く、「通過型観光地」となっており、来訪者の満足度や平均消費額が低いことが課題の1つである。これを改善するため、夜型観光の推進、美観地区での染物体験等体験型コンテンツの造成、PR等の対策を講じている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、商工会議所及び商工会と協力して、「取組宣言シート」を配布し、感染防止対策の見える化を図っている。また、地元の宿泊施設がおすすめする特産品や食事等が付いた販売価格の40%以上お得な限定プランの販売キャンペーンも実施している。

#### （日本遺産に関する取組み）

- ・倉敷市には、「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」（2017年度認定）、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」（2018年度認定）、「桃太郎伝説の生まれたまちおかやま～古代吉備の遺産がいざなう鬼退治の物語～」（2018年度認定）といった3つの日本遺産認定が存在する。
- ・日本遺産に関する取組みは、ポスター、チラシ、パンフレット、ガイドアプリの作成、日本遺産観光ガイド育成、学習まんが制作、シンポジウム開催、調査研究事業、建造物や文化財の修理修景工事、Wi-Fi整備等多岐に渡る。
- ・倉敷市は、岡山県ひいては日本を代表する歴史や文化財（美観地区や鷺羽山、箭田大塚古墳、各地域の古くからの民家や町並み、寺社やそこでの祭り、行事、生業や産業など）をもっと活用しようという市民、専門家との連携による全市的な歴史文化構想策定の取組みを発展させる形で日本遺産認定申請に至った。

#### （日本遺産に関する取組みの推進体制）

- ・日本遺産推進室が、予算措置を伴う事業所管課として位置づけられている。同室が企画部門に属していることもあって、調整や迅速な意思決定がしやすい。
- ・日本遺産構成要素が市内各地にあり、また取組みがソフトとハード両面の複数分野に渡るため、日本遺産推進室の職員は、部局横断的に兼任・併任の体制である。

### **(日本遺産に関する取組みの課題と今後の展望)**

- ・子どもたちに自分たちの住むまちの魅力や誇りを伝えていくことが、人口減を抑制することにもつながるという考え方にに基づき、日本遺産を活用した「郷土愛の醸成」の取組みをいかに子どもたちに広げていくかが課題であるとしている。
- ・今後は、これまでの財政支援を活用したハード整備から、市内小学校での出前講座の実施等をはじめとするソフト面の取組みへ軸足を移しつつ、持続的な取組みを推進していく。

## **2. アンケートについて**

- ・回収状況は、回収件数 408 件、回収率 50.1%であった。現在、集計及び分析作業を進めている。

## **3. 報告書の骨子案及びタイトルについて**

- ・座長及び各委員が骨子案をもとに、執筆内容についての説明の後、全体で確認及び調整を行った。
- ・タイトル案は、引き続き座長委員の意見等をふまえて調整する。
- ・報告書の方向性、スタンスとしては以下のとおり。
  - 「ツーリズム行政」を論じる以上、自治体行政の観光における役割をふまえた地域側の視点に立って論じたい。
  - 読者ターゲットは、都市自治体職員と地域の関係者である。関係者としては、自治体行政の組織、行動原理を理解することで、それを事業に活かせる市民、事業者、専門家を想定する。
  - 観光を手段として捉えるときに、都市自治体職員は、地域の誰と手を組んで、何の目的のために取組むのかを意識したい。
  - 執筆者が、日頃、自治体行政と関わる中で感じる課題は何か、その課題解決に資するメッセージを盛り込みたい。

(文責：日本都市センター)